

予告!

「地質リスク学会」  
第4回地質リスクマネジメント事例研究発表会  
事例研究発表募集

主催：地質リスク学会/一般社団法人全国地質調査業協会連合会  
後援：国土交通省国土技術政策総合研究所（第3回実績）  
協賛：独立行政法人土木研究所、独立行政法人産業技術総合研究所、NPO 地質情報整備活用機構、  
公益社団法人地盤工学会関東支部（第3回実績）

<開催趣旨>

第4回地質リスクマネジメント事例研究発表会を平成25年11月に開催する予定です。建設工事における地質リスクのマネジメントの実例を紹介し、様々な課題を議論し共有することで、今後の地質リスクマネジメントに役立てます。このような分析は公共工事におけるコスト縮減へも大きく貢献することが期待されます。さらにこの事例研究発表・討論会を通じて、地質リスクマネジメント事例収集への具体的な道筋を検討することを目的としています。

<開催概要>

開催日：平成25年11月22日  
開催場所：飯田橋レイナーホール（予定）  
〒162-0826 東京都新宿区市谷船河原町11番地 飯田橋レイナービル

<募集要領（概略）>

1. 地質リスクマネジメント事例研究発表応募資格  
地質リスク学会会員とする。  
地質リスク学会は学会ホームページ（<http://www.georisk.jp/>）から入会できます（登録無料）。
2. 発表内容  
募集する地質リスクマネジメント事例の種類は以下の4タイプとします。（別紙参照）  
A型：地質リスクを回避した事例  
B型：地質リスクが発現した事例  
C型：発現した地質リスクを最小限に回避した事例  
D型：上記のA型、B型、C型以外の事例
3. 募集日程（予定）  
発表申込期間 平成25年5月11日～平成25年9月30日
4. 提出物について（予定）  
当日の発表会までに以下のものをご提出いただきます。（提出期日厳守）  
平成25年11月初旬 事例研究論文の原稿（論文+データ様式）  
平成25年11月中旬 発表会用パワーポイントのデータ
5. 事例研究論文の原稿執筆について  
原稿の執筆要領は、現在、地質リスク学会のホームページで募集しております“事例の収集のお誘い”の応募要領に準じます。  
詳しくは、こちら ⇒ [http://www.georisk.jp/?page\\_id=24](http://www.georisk.jp/?page_id=24)

<その他>

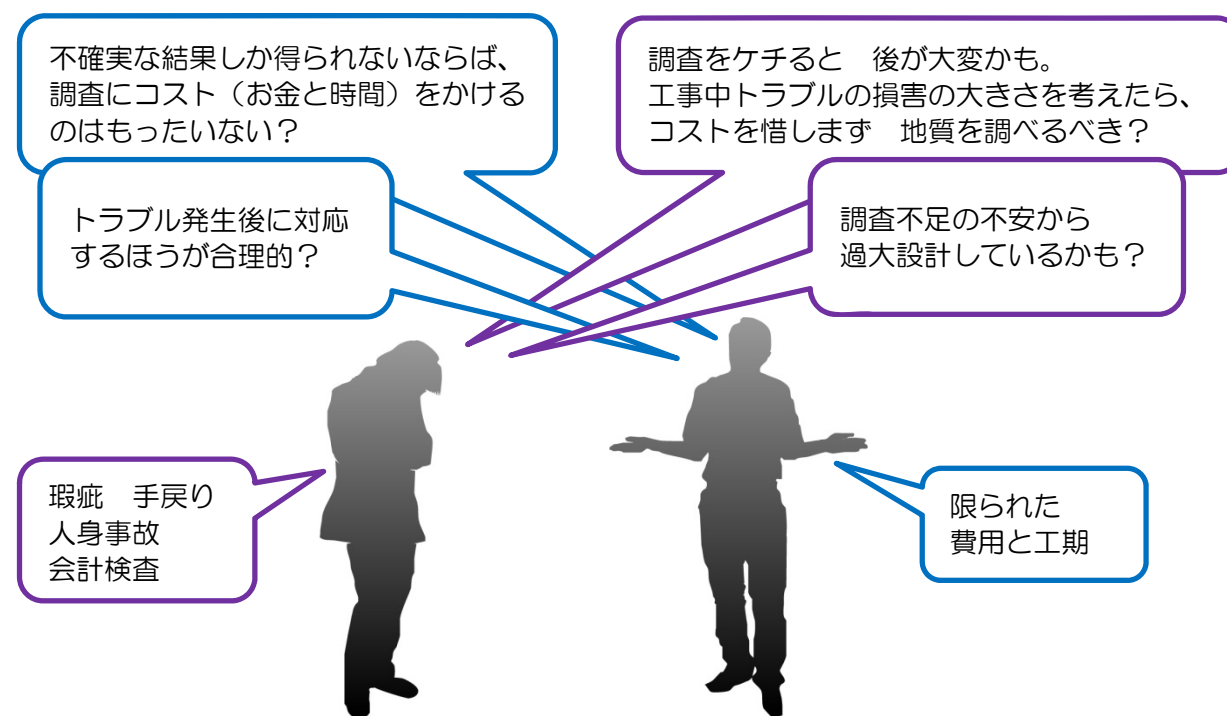
- ① 開催日時、場所、募集要項の詳細等は現時点での予定です。決定次第、学会ホームページ（<http://www.georisk.jp/>）にて順次お知らせします。
- ② 応募いただいた原稿の内、優秀論文賞を選出（1～2編程度）します。  
\*優秀論文賞の選考は、論文の内容やまとめ方等を総合的に判断して、地質リスク学会優秀論文賞選考委員会が行います。選考委員会の選考結果は、「地質リスクマネジメント事例研究発表会」開催以前にご連絡いたします。優秀論文賞（表彰状と記念品）の授与は、「地質リスクマネジメント事例研究発表会」において行います。

建設事業に関わるみなさまへ

地質リスク事例研究への参加をお待ちしています！

地質リスク学会 事例研究発表活性化委員会

地面の下の“地質”は、直接見る事ができないうえに、とても複雑なため「不確かさ」を備えています。土木建設の分野では、地質に関する不確実性をリスクととらえ、これをマネジメントすることで事業コストを縮減しようと取り組んでいます。「地質リスク学会」の事例研究発表会へ、みなさまの参加をお待ちしています。



どこまで調査すればいいの？

そんな悩みを解消するために！

地質リスク  
って何？

地質の不確かさによって  
事業コストが増えること

どうして  
地質リスクを  
研究するの？

地質の不確かさが  
コストが増える原因と  
わかっているのに  
妥当な調査がわからないから

どうやって  
地質リスクを  
研究するの？

まずは  
事例の収集と研究

私たちに  
できることは？

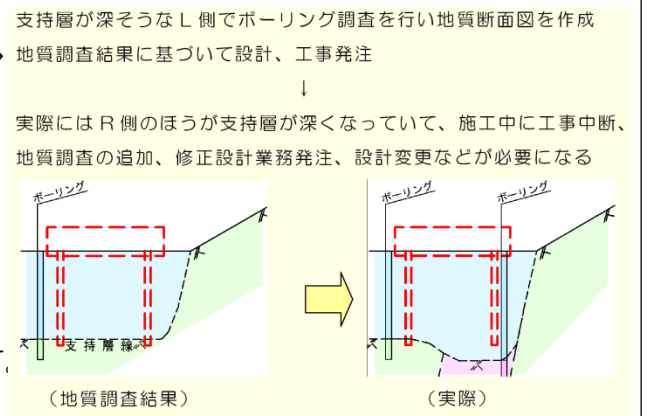
事例発表への参加  
(特に 発注者のみなさま)

<地質の宿命的不確実性>

地面の下の“地質”は、目に見えません。  
だから地質調査によって、地下の様子を推定します。  
けれど、土や岩の種類や硬さは場所によって全く違うし、  
いろいろな方向に割れ目もあるし、  
地下水まで流れていて、とても複雑。

だから、きちんと調べても完璧ではなく 予想と異なることもある。  
どれだけ頑張って調べてもゼロにならない、その「不確かさ」が地質リスクです。

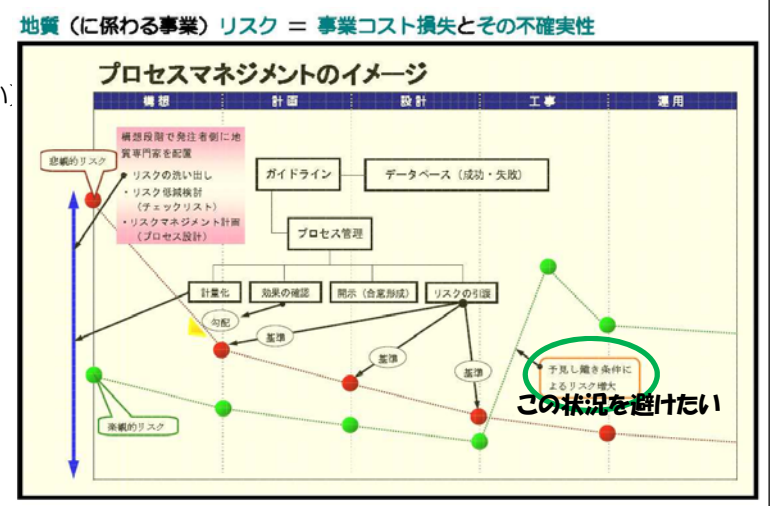
こんな経験ありませんか？⇒



<地質リスクの現状>

- 確実なこと** ⇒ 地質調査には コストがかかる
- 不確実なこと** ⇒ 調査不足で工事中にトラブルが起きる (かもしれない)
- 不確実なこと** ⇒ トラブルはもっとコストがかかる (かもしれない)

とかく「不確実な未来」には目をむき「**目先の確実な現実**」  
を気にするあまり、調査の簡素化や楽観的判断での設計をしがちです。  
ただしこれは設計、施工段階への「**リスクの先送り**」であり危険です。  
コストを削減するには、リスクを事業の最終段階まで保有しないで  
適正な地質調査を実施することで段階的に低減、平準化する努力  
(リスクマネジメント) が有効です。  
地質調査にどの程度のコスト割けばよいか、**妥当投資の  
評価手法を確立するためには地質リスクの研究が必要**なのです。



<地質リスク学会の活動>

地質リスクとそのマネジメントは、地質リスク学会によって研究が  
進められています。当学会は地質リスクに関わる事例を収集し、  
研究発表会を開催しています。  
発表された事例は、データベース化され、事例研究、分析の  
基礎資料として蓄積されます。

<事例研究の必要性>

地質リスクマネジメントに効果があることは判っても、分析された事例  
が少ないため、**効果 (コスト削減) の定量的な評価が課題**になっています。  
事例研究には、計画・調査から設計・施工まで、事業全体を見てきた  
**事業者 (発注者) の協力が不可欠**です。



<事例研究のメリット>

- ① いろんな事例を知ることで、地質リスク発現時の対応手段を増やし、**技術力を向上**させることができます。
- ② 地質リスクによる設計変更を整理しておくことで、**情報開示請求や会計検査時の説明が容易**になります。
- ③ 地質リスクマネジメントそのものが**コスト削減など事業における創意工夫のアピール**になります。  
などなど 書き尽くせないほどのメリットがあります。

<事例研究にご協力願います>

研究を進めるには、多様な主体からの参画による協働の取り組みが必要です。  
★特に事業主体、発注者側からの参加が不可欠！  
・地質リスクの発現事例について公表に際してのご協力を願います。  
・また自ら研究発表への参加 (民間技術者との共同研究発表も歓迎) を心よりお待ちしております。

公共事業コスト削減のフロンティア それが地質リスクマネジメントです。